

平成 23 年 7 月 15 日

各位

「米国民は、もしかしたら安い賃金や高い失業率を受け入れることができるかもしれない。それに、長い時間をかければ、絶対的な損失にも相対的な損失にも徐々に慣れていくかもしれない。広がる一方の経済格差すら辛抱できるかもしれない。しかしこれが、「もしかしたらすべて仕組まれた経済ゲームなのではないか」という疑い、つまり「巨万の富と権力を持つ人々がたちはだかっているから、いくら頑張っても豊かになれないのだ」という見方と結びついたとき、その感情は社会にとって相当毒のあるものになる可能性がある。

拝啓 暑さ厳しき折から、時下ますますご清祥の段、お慶び申し上げます。平素は格別のお引き立てをいただき、厚く御礼申し上げます。

このたび弊社コーポレートシチズンシップの翻訳事業第 5 作目となる、ロバート・B・ライシュ著「余震、そして中間層がいなくなる（原題”Aftershock”）」が東洋経済新報社より刊行されましたので、ここにお届け申し上げます。

冒頭に挙げましたのは本書からの引用です。今回、本書のタイトルを決めるにあたり、原書タイトル“*Aftershock*”を直訳した「余震」とするか否か、喧々譁々の議論を致しました。本年 3 月 11 日の東日本大震災の復興もまだ見通しすら立たない中、「余震」をタイトルとすることで、著者の伝えたいメッセージが誤解されないか非常に悩みました。しかし、冒頭の引用にありますように、米国民だけでなく、私たち日本国民もグローバル経済下での格差拡大によって、自国経済の成長が停滞する危険性にさらされており、その原因が、著者が指摘するように、富と権力による仕組まれたゲームによって起きているのであれば、世界金融危機後の経済的余震はそう簡単に終息することはないのではないかと考えました。うち続く経済的余震の中で徐々に中間層が弱体化していくという構図は、日本にとっても決して無縁ではありません。そこであえて「余震、そして中間層がいなくなる」というタイトルにした次第です。

私たちの思いは、「東日本大震災の復興にも大きな影響を及ぼしかねない、これ以上の経済的余震を続けてはならない」の一言です。本書は、米国、そして日本に共通するこの経済格差問題について多くの対策を提言する重要な書籍の一つになると思われます。経済の主役を富裕層から中間層に大きく転換すべき時がきているのではないのでしょうか。その意味で各界リーダーの方々にとっても参考となる一冊であると思います。

有限会社コーポレートシチズンシップ  
〒220-0011 横浜市西区高島 2-10-13-1003  
(Tel) 045-534-4007 (Fax) 045-461-2776 (Email) info@corporatetcitizenship.jp

つきましてはぜひとも本書をご一読いただき、感想などお聞かせいただくとともに、今後の政治と経済についての議論の一助としていただきたく、ここにご送付申し上げます。どうぞよろしくご査収のほどお願い申し上げます。

敬具

<ご参考：本書の構成>

第1部－1930年代～40年代にFRB議長として活躍したマリナー・エクルズによる大恐慌の分析と2008年の世界経済危機との共通点を考察。富の集中が不況を招くという歴史が繰り返されることを指摘。

第2部－経済格差問題が深刻化し、中間層を中心に新たな政治的な運動が生じる可能性を示唆。富の集中が仕組まれたゲームであることを国民が気づいていく。

第3部－中間層のための新しいニューディール政策を提言

雨宮 寛

雨宮 寛  
コーポレートシチズンシップ代表取締役  
DWM アセットマネジメント日本代表  
明治大学公共政策大学院兼任講師

今井 章子

今井 章子  
コーポレートシチズンシップ取締役  
東京財団研究員兼広報渉外担当ディレクター  
昭和女子大学非常勤講師